



いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所 -----	236
ジャッキの使いかた -----	237

■ いざというときの処置

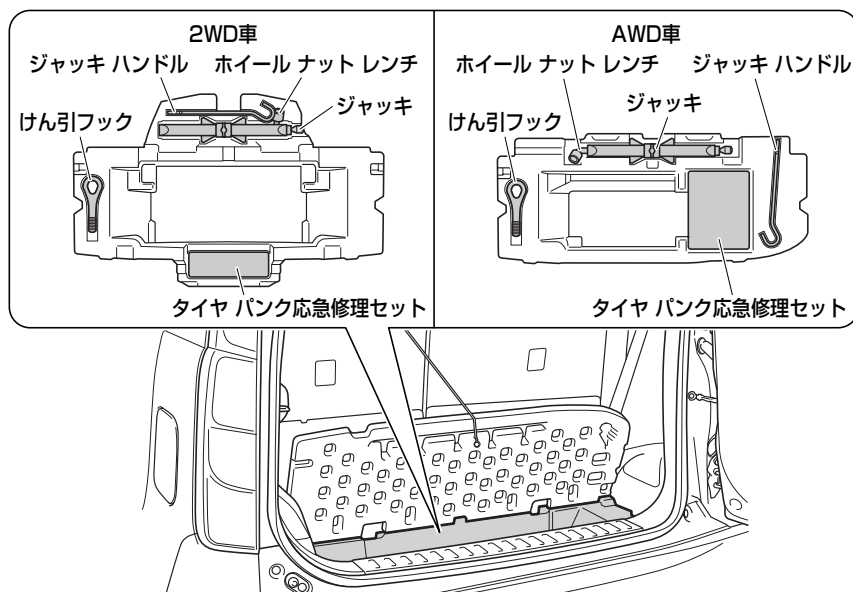
エンジンがかからないとき -----	242
故障したとき -----	242
けん引される時 -----	244
パンクしたとき -----	246
タイヤ パンク応急修理セット ---	247
バッテリーあがりの処置 -----	254
オーバー ヒートの処置 -----	256
ヒューズの交換 -----	257
電球（バルブ）交換 -----	262
アクセス キーが使用できないとき ----	277
キーの電池交換 -----	281
キーを閉じ込めたとき -----	286
事故が起きたとき -----	286



工具類

格納場所

サブ トランクに収納しています。



⚠注意

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

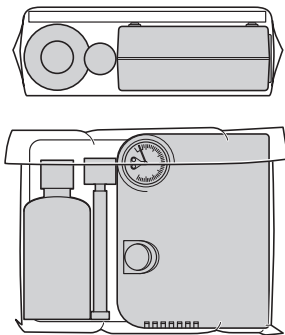


○タイヤ パンク修理セット

使用するときには、袋から出してください。

⚠️注意

- 収納するときには、下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、サブ トランクに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。



ジャッキの使いかた

⚠️警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあります。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。





⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

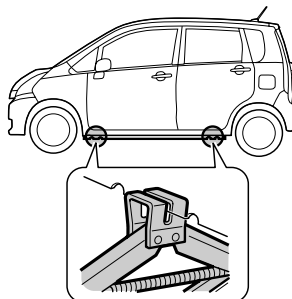
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

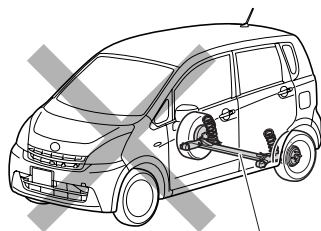
▼セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。



⚠注意

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。



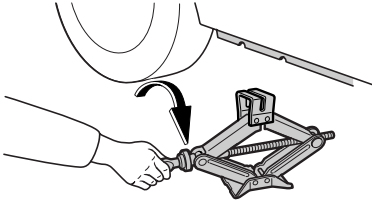
リヤ サスペンション ビーム



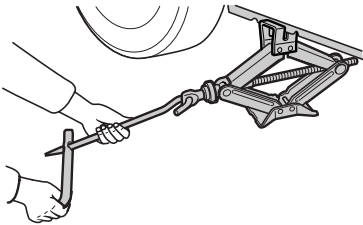
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。

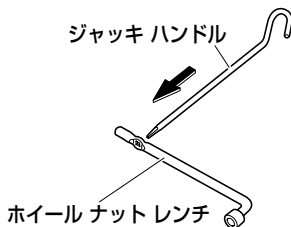


2. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。



👉 アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。





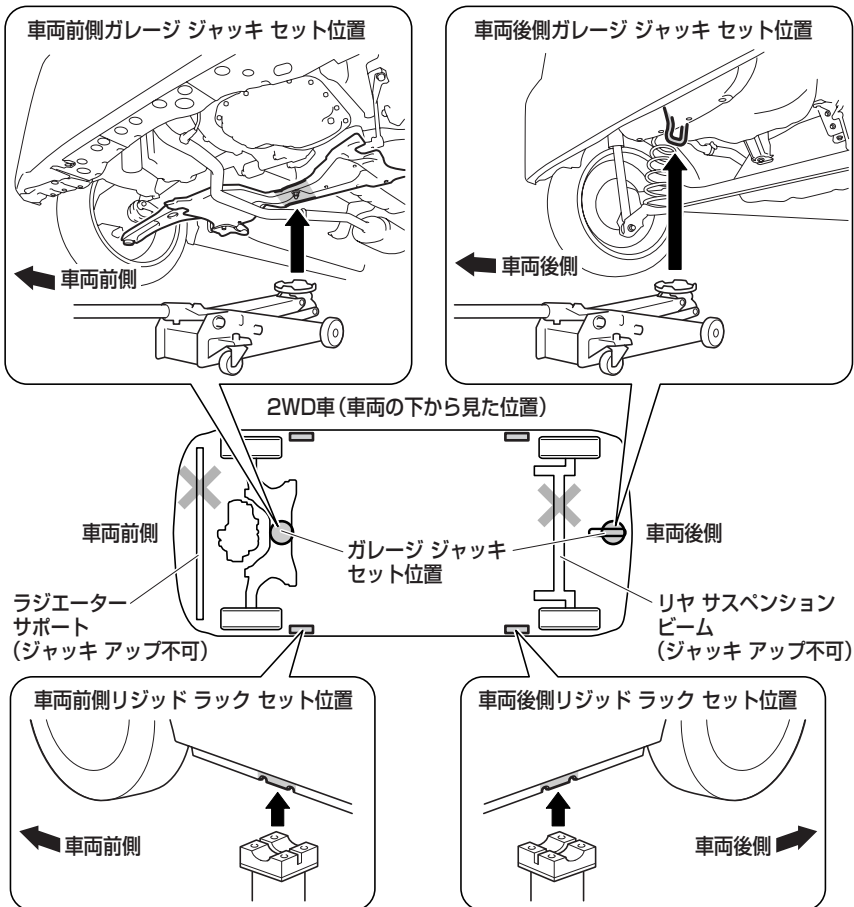
ガレージ ジャッキ (市販品) を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック (市販品) をリジッド ラック セット位置にセットしてください。

△注意

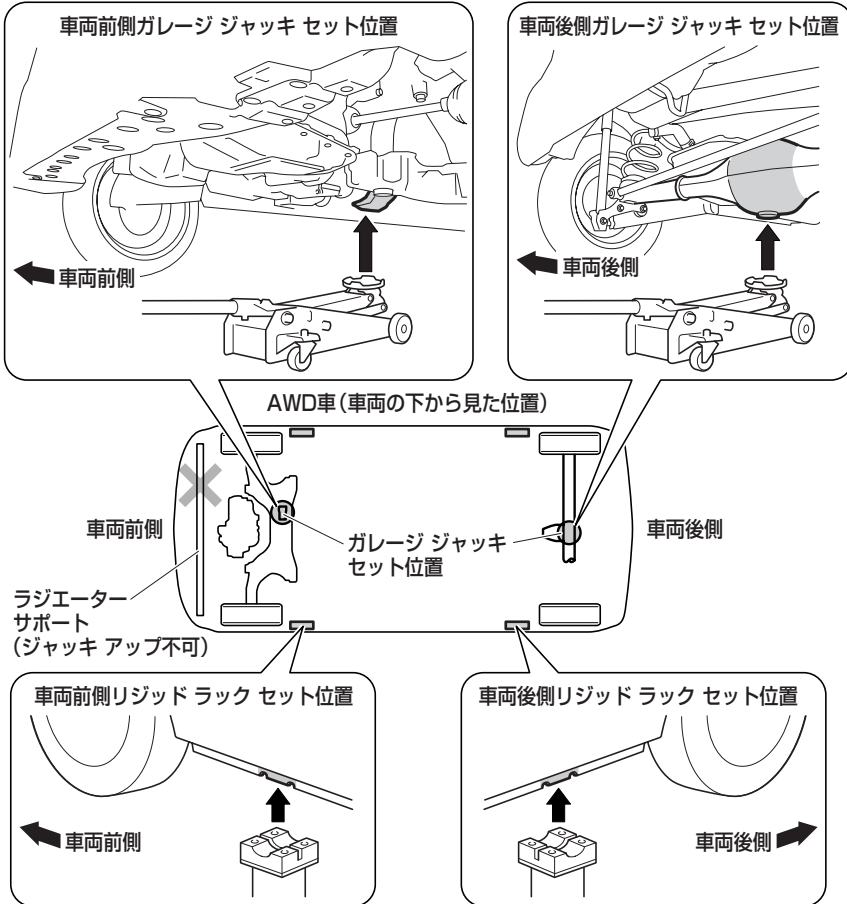
- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車





AWD車





いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際には電源を“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのスバル販売店にご連絡ください。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。付近に人がいる場合は押ししてもらってください。

⚠ 注意

- 車を押す場合、セレクト レバーは[N] レンジに入れてください。

👉 アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○ 踏切内の場合

踏切内で動けなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

スタック（立ち往生）

脱輪や、ぬかるみでタイヤが空転して動かさなくなったときは、下記の方法で脱出します。

▼脱出方法

タイヤの下に石や木などをあてがい脱出します。または前進、後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。

⚠注意

- 布きれなどをタイヤの下に挟んで脱出するときは、布きれがタイヤにからまないように注意してください。
- タイヤを高速で回転させないでください。バースト（破裂）したり、異常過熱を起こし危険です。
- タイヤの後方に立たないでください。あてがった石や木が飛んでくるおそれがあり危険です。

アドバイス

VDC装着車

- 新雪、深雪、砂地などで、VDC・TRCが作動して脱出しにくい場合はVDC OFFスイッチを押してTRC、またはVDCを“OFF”の状態にしてください。

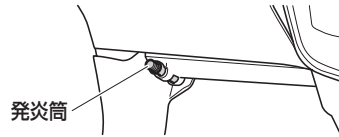
(VDC OFFスイッチ→ 154 ページ)

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されています。



⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けてとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。



いざというときに いざというときの処置

けん引されるとき

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。)

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- AWD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。
車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

⚠注意

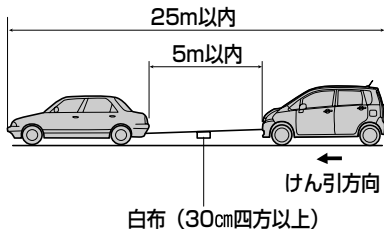
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。
駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュ エンジン スイッチが故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。
- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
 - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
 - 電源はハンドル ロックを解除させるために“ACC”にし、セレクト レバーはNレンジにしてください。
 - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
 - 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。



けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。



ロープをかける位置

ロープは必ず車体先端のフックにかけてください。

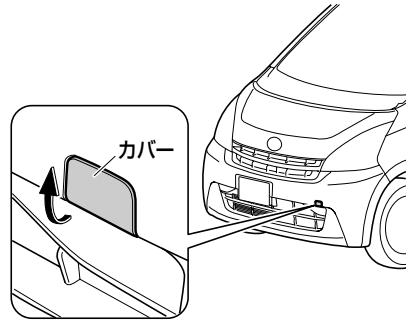
▼けん引フックの取り付けかた

1. カスタム仕様車は傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、カバーとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。

2. カバーを外します。

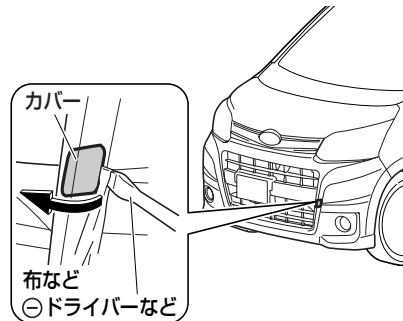
標準車

カバーを矢印の方向に取り外します。



カスタム仕様車

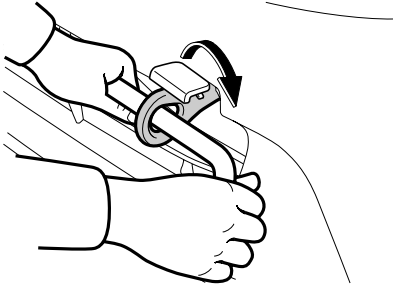
用意した⊖ドライバーなどを図の位置の切りかきから差し込み、カバーを外します。





いざというときに いざというときの処置

- けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナットレンチでしっかりと固定します。



パンクしたとき

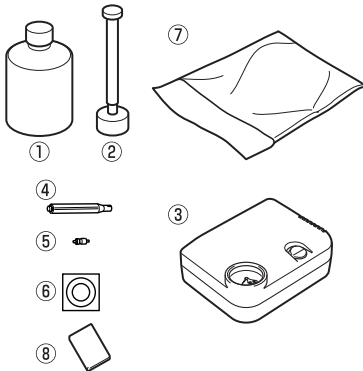
高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

タイヤパンク応急修理セット

- タイヤパンク応急修理セットは、タイヤがパンクしたとき、パンク穴をふさぐタイヤパンク応急修理剤と空気を注入するタイヤ空気充填用コンプレッサーを用いて応急修理を行う際に使用します。
- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されていません。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、ただちにタイヤの交換、またはスバル販売店で、点検、修理を受けてください。

△注意

- タイヤパンク応急修理剤は、飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- タイヤパンク応急修理剤が、目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 保管の際は、指定の場所に保管してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。



- ① タイヤパンク応急修理剤
- ② 注入ホース
- ③ タイヤ空気充填用コンプレッサー
- ④ バルブコア (ムシ) 回し
- ⑤ 予備バルブコア (ムシ)
- ⑥ 速度制限シール
- ⑦ 袋
- ⑧ 取扱説明書



いざというときに いざというときの処置

👉 アドバイス

- タイヤの空気充填用コンプレッサーは、タイヤ空気充填専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- タイヤの空気充填用コンプレッサーはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 10分以上連続して使用しないでください。
 - 降雨時など、水がかからないようにしてください。
 - 砂ぼこりなどを吸い込ませないようにしてください。
 - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったときはただちにスイッチを“OFF”にし、30分以上放置してください。
 - 分解、改造などは絶対にしないでください。
 - 強い衝撃や圧力を加えないでください。
- タイヤパンク応急修理剤の有効期限はボトルに表示しています。期限を過ぎたタイヤパンク応急修理剤は、修理性能が低下しますので、最寄りのスバル販売店で交換（有償）してください。

タイヤの応急修理方法

⚠️注意

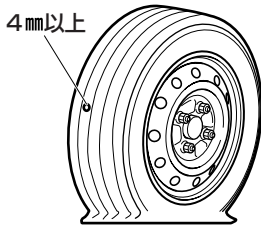
- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

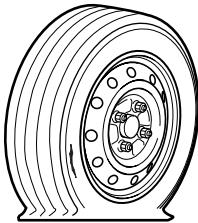


👉 アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。
- 下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。スバル販売店またはJAFなどにご連絡ください。JAFの営業所リストについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷

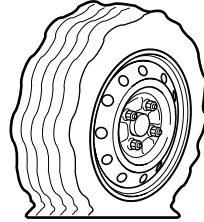


- タイヤサイド部がカットを受けた場合

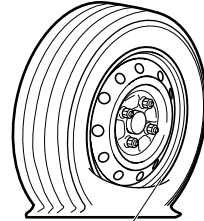


👉 アドバイス

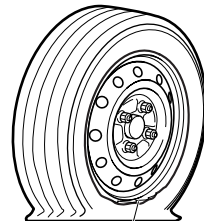
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した場合



- タイヤとリムが外れている場合



- リム部が破損している場合





いざというときに いざというときの処置

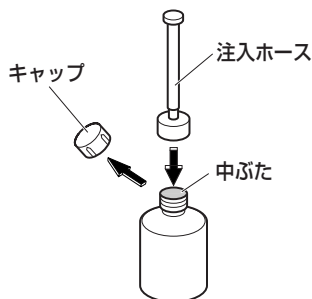
▼使用方法

1. タイヤパンク応急修理剤とタイヤ空気充填用コンプレッサーを取り出し、タイヤパンク応急修理剤をよく振ります。

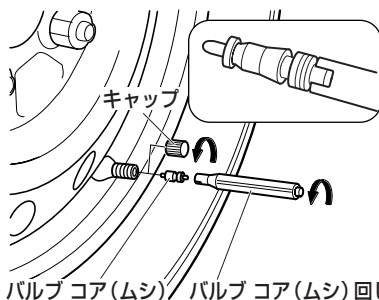
📱アドバイス

- タイヤパンク応急修理剤は注入ホースをねじ込む前によく振ってください。

2. タイヤパンク応急修理剤のキャップを外し、中ぶたを外さずに注入ホースをタイヤパンク応急修理剤のボトルに回し込みます。



3. タイヤバルブからキャップを左に回して外し、ビニール袋に入っているバルブコア（ムシ）回しでバルブコア（ムシ）を左に回して外します。



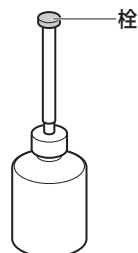
⚠️注意

- バルブコア（ムシ）を外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコア（ムシ）が飛び出すことがあります。慎重に外してください。

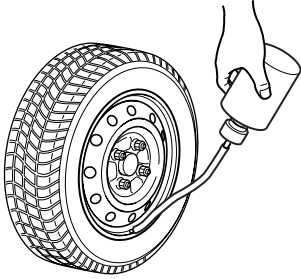
📱アドバイス

- バルブコア（ムシ）は汚れないようにきれいなところに保管してください。

4. 注入ホースの栓を外し、注入ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。

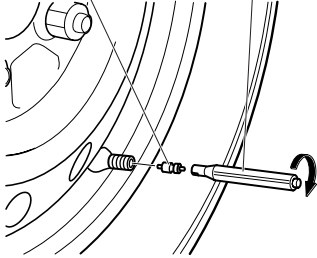


5. タイヤパンク応急修理剤を逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。



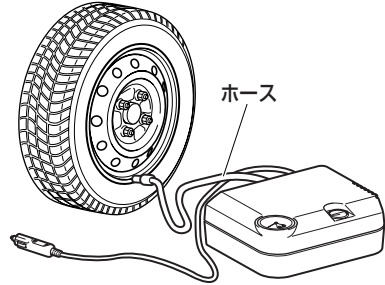
6. 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、バルブコア（ムシ）をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

バルブコア（ムシ） バルブコア（ムシ）回し

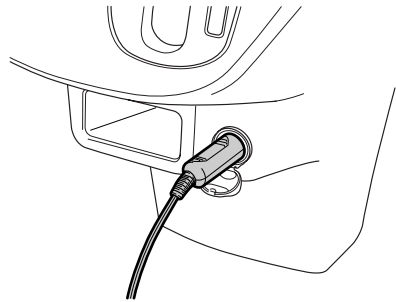


7. タイヤ空気充填用コンプレッサー側面から、ホースを取り出します。

8. タイヤ空気充填用コンプレッサーのホースをタイヤバルブにねじ込みます。



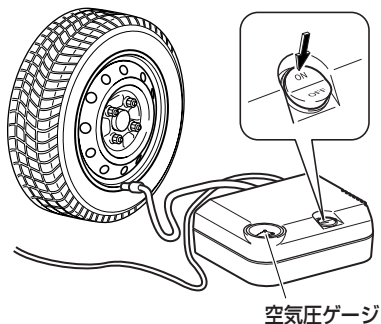
9. 電源を“ACC”または“ON”にし、タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込みます。





いざというときに いざというときの処置

10. タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを入れ、タイヤ空気圧を指定空気圧まで昇圧してください。



⚠注意

- タイヤが膨らむとビードがリムにはまり込むので、指などを挟まないようにしてください。

👉アドバイス

- タイヤ空気圧を、指定空気圧まで昇圧するには約 5 分程度必要です。もし、5 分以内に十分昇圧しないなら、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2~3 回以上回し、タイヤパンク応急修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

(ジャッキの使いかた→ 237 ページ)

- タイヤのビードがリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤの隙間をなくすようにしてタイヤ空気充填用コンプレッサーを作動させてください。(隙間がなくなれば空気圧が上がります) それでも空気圧が十分に高くないようであれば、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤパンク応急修理剤で修理することができません。スバル販売店または、JAFなどにご連絡ください。JAFの営業所リストについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。必ず確認してください。

11. 指定空気圧まで昇圧できれば、ただちに走行してください。走行は約80km/h以下で注意深く運転してください。

アドバイス

- 空気を入れすぎた場合は、注入ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

12. 10 分間または5 km程度走行後、タイヤ空気圧をタイヤ空気充填用コンプレッサーの空気圧ゲージでチェックしてください。

アドバイス

- タイヤ空気充填用コンプレッサーの空気圧ゲージで空気圧を測定するときは、タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを一度“ON”にしてタイヤ空気充填コンプレッサーを起動させます。そのあと、スイッチを“OFF”にしてからタイヤ空気圧を確認してください。

13. 空気圧が 130kPa以上であれば、パンク応急修理の完了です。空気圧を指定空気圧に調整してください。

アドバイス

- 走行後に空気圧が 130kPa以下に低下していたら、タイヤパンク応急修理剤による修理はできません。走行を中止し、スバル販売店または、JAFなどにご連絡ください。JAFの営業所リストについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

14. 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼り、十分注意して走行させてください。

注意

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面には貼り付けないでください。

○ 応急修理後の処置

タイヤパンク応急修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理、再使用についてはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- ホイールは、付着したタイヤパンク応急修理剤を抜き取れば再使用できます。ただし、バルブコア（ムシ）は新しい物と取り替えてください。
- こぼれたタイヤパンク応急修理剤は、ふき取るか、そのまま乾燥させ剥がしてください。
- 空になったタイヤパンク応急修理剤をスバル販売店で破棄してください。
- 新しいタイヤパンク応急修理剤をスバル販売店で購入してください。
- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。



タイヤパンク応急修理セットの 点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの各部品は日常点検を実施してください。

- タイヤパンク応急修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
(電化製品を使用するなどして、作動で点検してください)
- タイヤ空気充填用コンプレッサー作動の確認
(電源を“ACC”または“ON”にし、タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込みます)

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キーレスアクセス装着車のアクセスキーでドアが解錠しない。

アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、ときどきエンジンの回転を上げる。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。



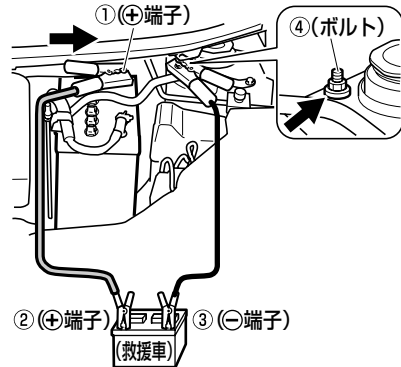
▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
 - ①バッテリーあがり車の⊕端子
 - ②救援車の⊕端子
 - ③救援車の⊖端子
 - ④下記の箇所（アースにつなぐ）





いざというときに いざというときの処置

2. 救援車（電源側の車）を始動し、少しエンジン回転を高めを保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、ブースターケーブルを矢印の方向にして、⊕端子に接続させてください。
また、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
 - ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき
- 車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。

3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

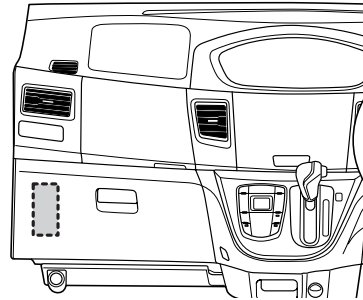
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

ヒューズの位置

- インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

グローブ ボックス奥に設置されています。

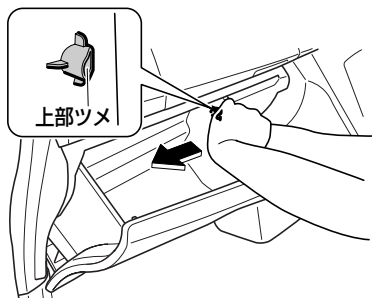




いざというときに いざというときの処置

▼グローブボックスの取り外しかた

1. 電源を“OFF”にします。
2. グローブボックスを開けます。
3. グローブボックスの右側を矢印の方向にたわませて、上部ツメを外します。



4. グローブボックスの左側を矢印の方向にたわませて、上部ツメを外します。

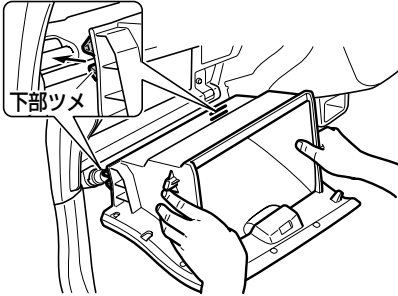


5. 矢印の方向へ引いて下部ツメを外し、グローブボックスを取り外します。

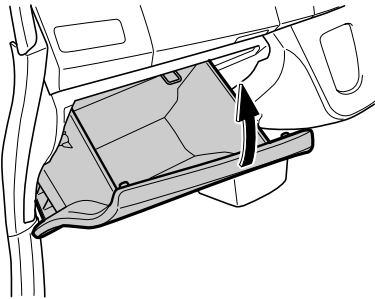


▼グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスの下部ツメを取り付けます。



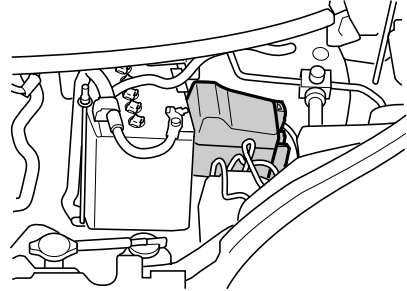
2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。



 **アドバイス**

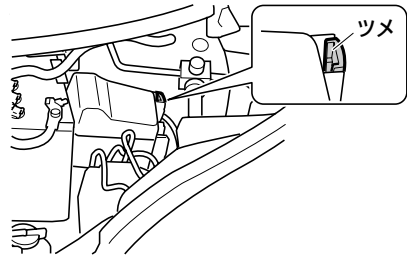
- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

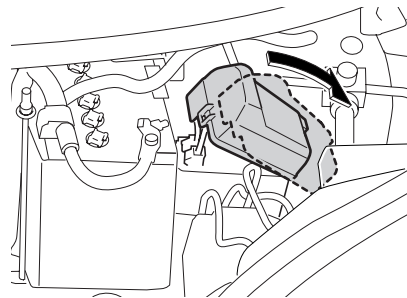


▼取り外しかた

1. 電源を“OFF” にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを浮かせます。



3. カバーを傾けた状態で、矢印の方向に押し込んだあと、手前に抜き取ります。



▼取り付けかた

取り外すときと逆の手順で行います。



いざというときに いざというときの処置

ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

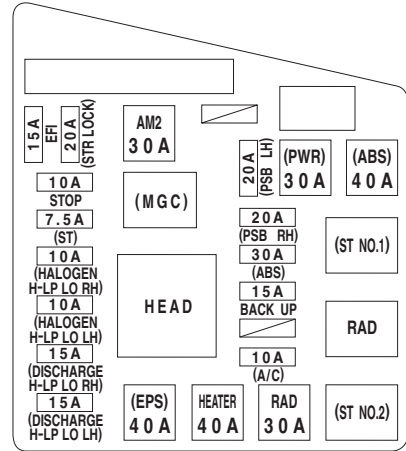
○インストルメント パネル ヒューズ ボックス

▼ラベル位置

グローブ ボックスの裏側に表示されています。

TAIL 10A	(ETCS) 10A
DOME 5A	HORN/HAZ 10A
(FOG RH) 7.5A	AM2 7.5A
(FOG LH) 7.5A	(AM1) 5A
	D/L 15A
BACK UP 5A	POWER B 20A
(RR WIPER) 10A	ECU IG2 5A
WASHER 15A	E/G 10A
FR WIPER 25A	IG1/BACK 5A
POWER IG 30A	(SEAT HTR) 10A
	ECU IG1 7.5A
(ECU-B) 10A	SOCKET 15A
(A/C) 5A	ACC 5A
(DEFOG2) 5A	H-LP HI RH 10A
DEFOG1 15A	H-LP HI LH 10A

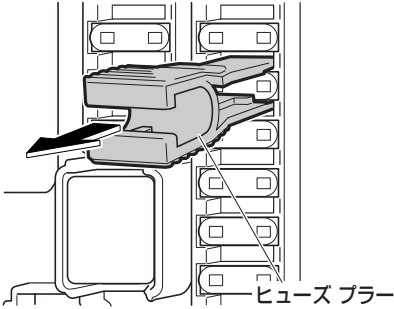
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス
ヒューズ ボックスのカバーに表示されています。





ヒューズの点検と交換

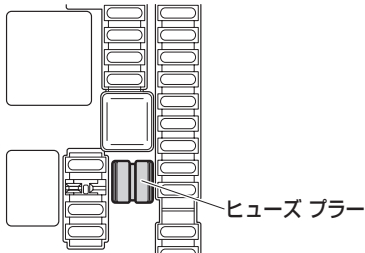
1. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。



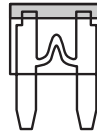
アドバイス

ヒューズ プラーの位置

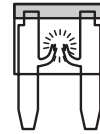
- インストルメント パネル ヒューズボックス内にあります。



2. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)

注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。



いざというときに いざというときの処置

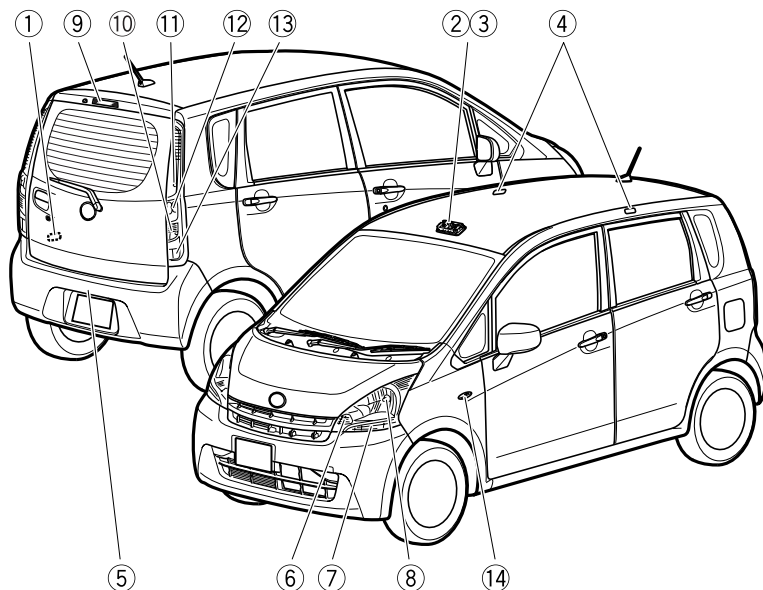
電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

標準車

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





ランプ		電球(バルブ)	
		W(ワット)数	タイプ
①	カーゴルームランプ	5	T10
②	ルームランプ	8	T10
③	フロント マップランプ	5	T10
④	リヤマップランプ	5	T10
⑤	番号灯	5	T10
⑥	車幅灯	5	T10
⑦	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	S25(アンバー)
⑧	前照灯	60/55	H4

下記の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

⑨ハイマウント ストップ ランプ (LED)

⑩後退灯

⑪後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

⑫制動灯 (LED)

⑬尾灯

⑭側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

アドバイス

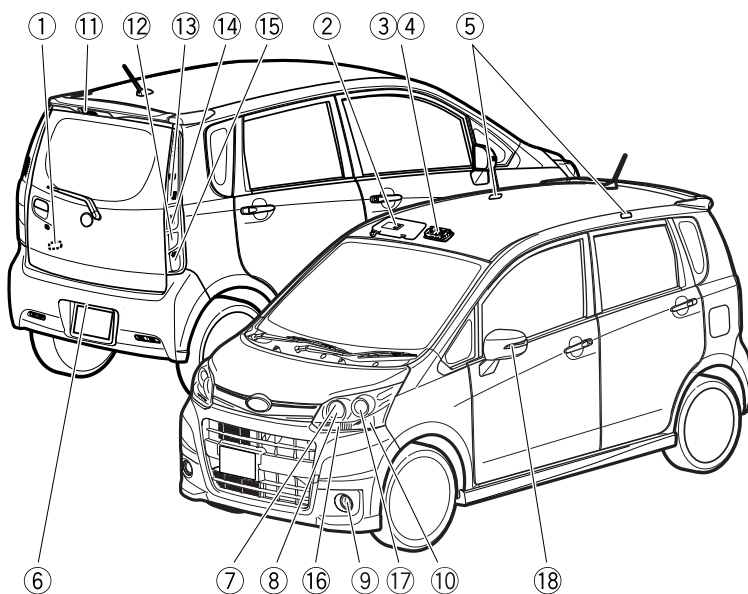
- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。
- 後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯、尾灯は、ランプ本体を取り外すのが困難なため、電球を交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- 側面方向指示灯 兼 非常点滅灯は、レンズセット交換になるため、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。



いざというときに いざというときの処置

カスタム仕様車

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





ランプ		電球 (バルブ)	
		W(ワット)数	タイプ
①	カーゴルームランプ	5	T10
②	パニティミラーランプ	2	—
③	ルームランプ	8	T10
④	フロント マップランプ	5	T10
⑤	リヤマップランプ	5	T10
⑥	番号灯	5	T10
⑦	車幅灯	5	T10
⑧	前照灯/ハイビーム	60	HB3
⑨	フォグランプ	35	H8
⑩	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	T20 (アンバー)

下記の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

- ⑪ハイマウント ストップ ランプ (LED)
- ⑫後退灯
- ⑬後面方向指示灯 兼 非常点滅灯
- ⑭制動灯 (LED)
- ⑮尾灯
- ⑯LEDイルミネーション (HIDヘッド ランプ)
(LED)
- ⑰前照灯/ロービーム (HIDランプ)
- ⑱側面方向指示灯 兼 非常点滅灯 (LED)

アドバイス

- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。
- 後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯、尾灯は、ランプ本体を取り外すのが困難なため、電球を交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは、高電圧を使用しているため、お客さまご自身による電球の交換はできません。スバル販売店にご相談ください。



いざというときに いざというときの処置

交換の手順

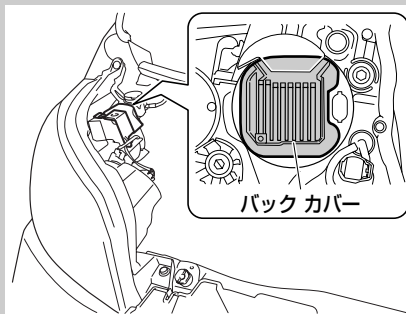
⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠警告

HIDランプ装着車

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、やけどや感電するおそれがあり危険です。ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。
- HIDランプが点灯しているとき、および消灯した直後は、ランプの裏側のバックカバーが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあり危険です。



⚠注意

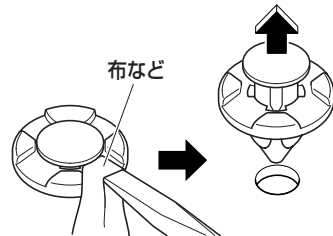
- 同じワット数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶついたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
- 電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。特に前照灯用（フォグランプ含む）の電球は油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

🔧アドバイス

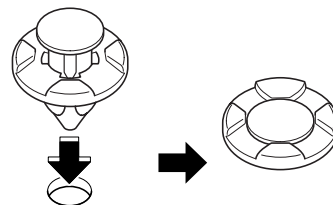
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

- クリップタイプ[Ⓐ]
 - 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。



- 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

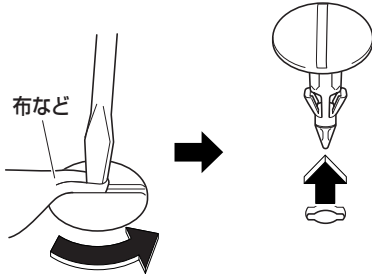




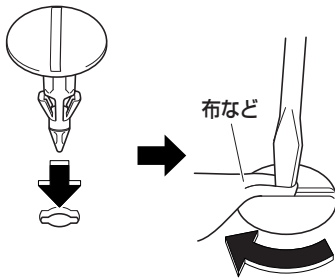
いざというときに いざというときの処置

👉 アドバイス

- クリップ タイプ®
- 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り外します。



- 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り付けます。

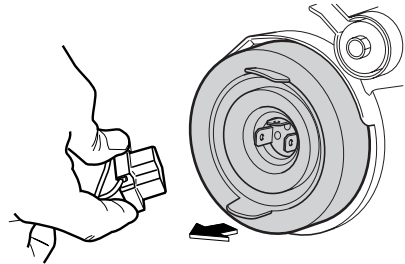


○ 前照灯

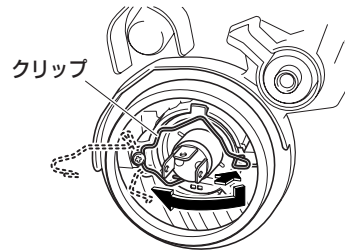
標準車

▼ 取り外し手順

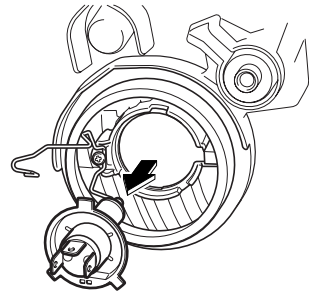
1. コネクターを取り外したあと、カバーを取り外します。



2. クリップを矢印の方向に外します。



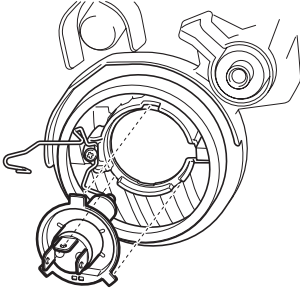
3. バルブを取り外します。



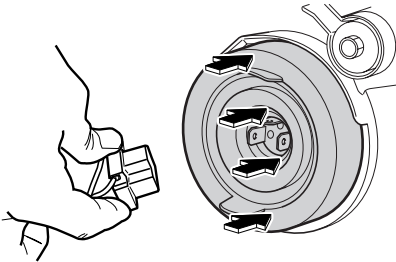


▼取り付け手順

1. バルブの突起部をヘッド ランプ本体の溝にはめ込みます。



2. クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定します。
3. 矢印の方向にカバーを押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクタを取り付けます。

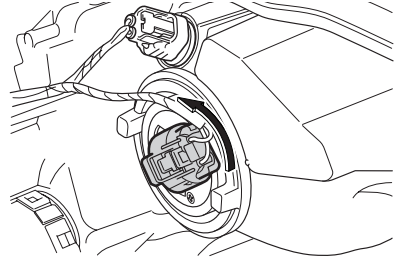


○前照灯／ハイ ビーム

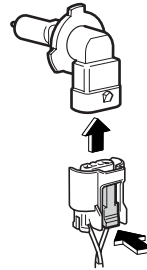
カスタム仕様車

▼取り外し手順

1. バルブを回して外します。



2. コネクタのツメを押して、コネクタからバルブを取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。



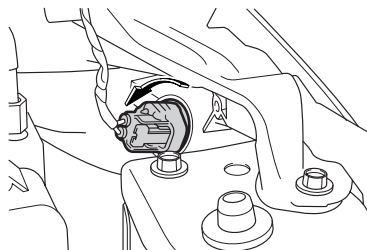
いざというときに いざというときの処置

○車幅灯

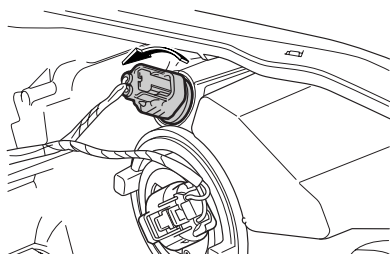
▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

標準車



カスタム仕様車



2. ソケットから電球を引き抜きます。



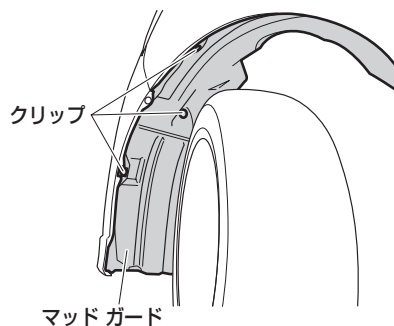
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

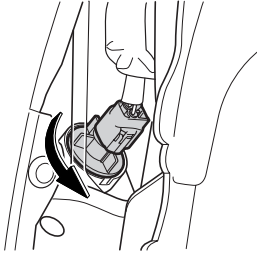
▼取り外し手順

1. ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回します。
2. クリップ (3 個) を取り外し、バンパーとマッドガードの間に手が入るくらいマッドガードをめくります。

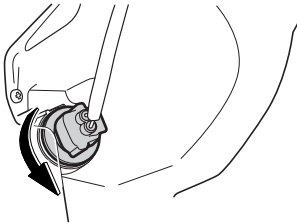


3. ソケットを回して取り外します。

標準車



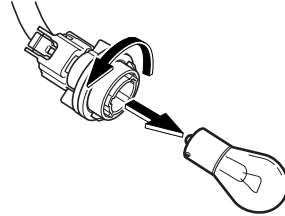
カスタム仕様車



4. 電球を取り外します。

標準車

電球を押しながら回して、ソケットから抜き取ります。



カスタム仕様車

ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。



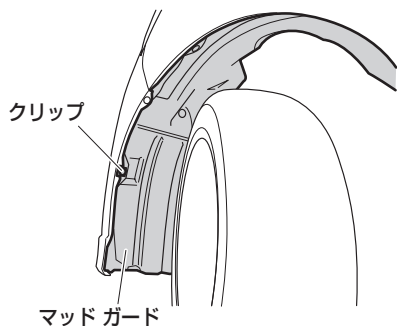
いざというときに いざというときの処置

○フォグ ランプ

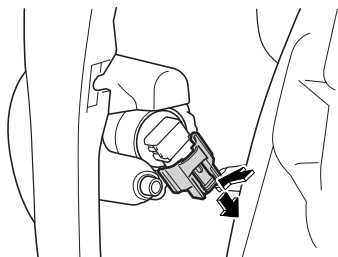
オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

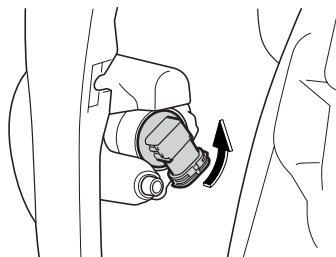
1. ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回します。
2. クリップ (1 個) を取り外し、バンパーとマッド ガードの間に手が入るくらいマッド ガードをめくります。



3. コネクターのツメを押して、コネクターを取り外します。



4. バルブを回して取り外します。



▼取り付け手順

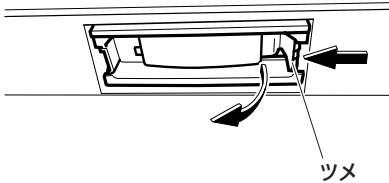
逆の手順で行います。



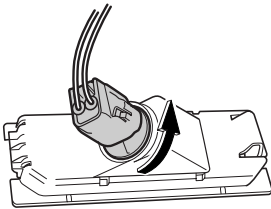
○番号灯

▼取り外し手順

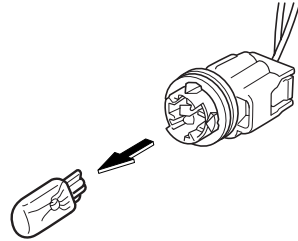
1. ツメを矢印の方向に押し、ランプ本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

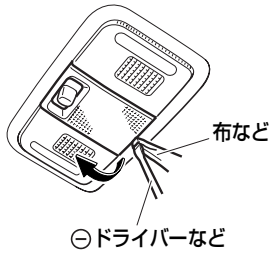


いざというときに いざというときの処置

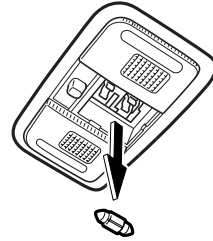
○ルーム ランプ

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

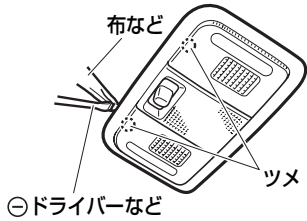
逆の手順で行います。



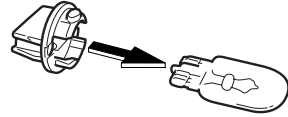
○フロント マップ ランプ

▼取り外し手順

1. ㊦ドライバーを差し込み、ツメ（2カ所）を外してランプ本体を取り外します。



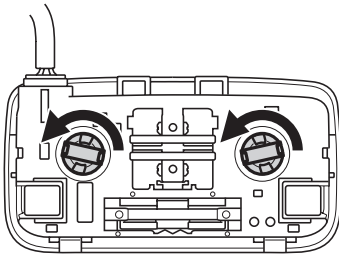
3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

2. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



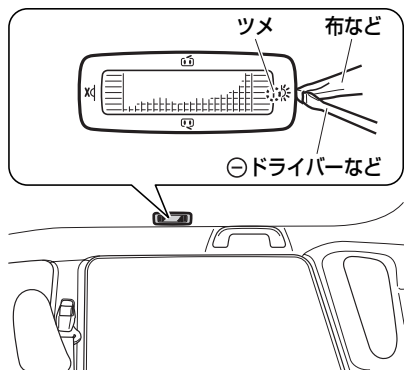


いざというときに いざというときの処置

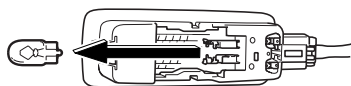
○リヤ マップ ランプ

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込み、ランプ本体を取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

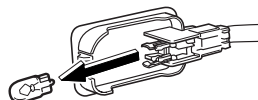
○カーゴ ルーム ランプ

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込み、ランプ本体を取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

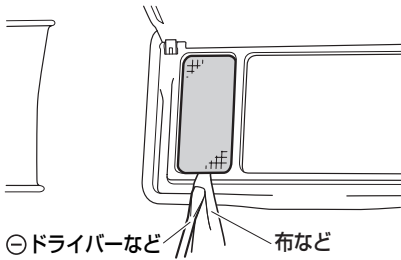
逆の手順で行います。



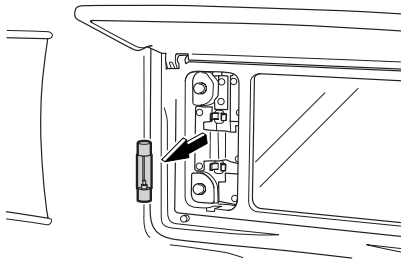
○バニティ ミラー ランプ
オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

アクセス キーが
使用できないとき

電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合は、メイン キー、またはアクセス キー（メカニカル キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行ってください。

（ドアの施錠、解錠→ 278 ページ）

（電源の切り替え、エンジンのかけかた
→ 279 ページ）

⚠警告

- 電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合でも、アンテナは常に電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外アンテナ・車室内アンテナから約 22 cm以内に近づかないようにしてください。

（アンテナ→ 87 ページ）



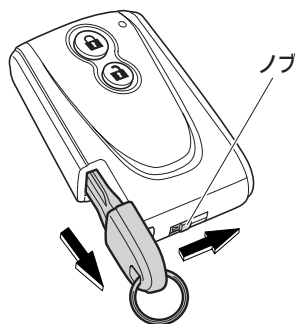


いざというときに いざというときの処置

メカニカル キーの取り出しかた

▼取り出しかた

アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、アクセス キーから、メカニカル キーを引き抜きます。

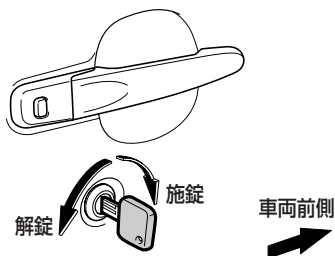


ドアの施錠、解錠

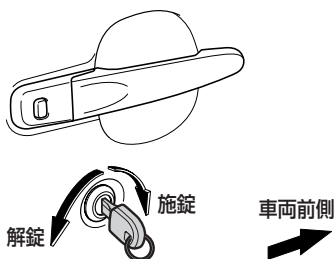
▼操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。

メイン キー



メカニカル キー



📱 アドバイス

盗難警報装置がセットされている場合

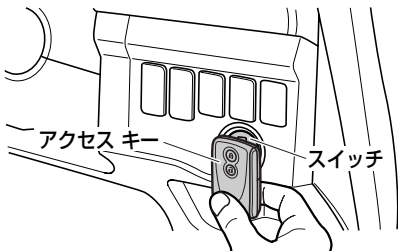
- アクセス キー以外でドアを解錠してドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。
- 盗難警報装置の警報が作動した場合は、1 次警報ブザーが作動している 10 秒間に、警報を停止させてください。
(警報の停止方法→ 101 ページ)
- 10 秒以上経過すると、2 次警報のホーンが鳴りはじめますので、ご注意ください。

電源の切り替え、 エンジンのかけかた

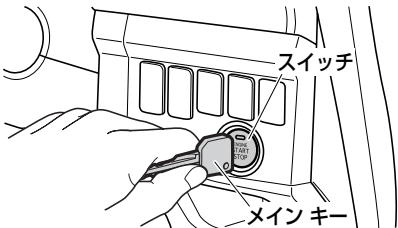
▼操作方法

1. ブレーキ ペダルを一度踏んで離します。
 2. ブレーキ ペダルを離してから約 4 秒以内に、キーを図のようにプッシュエンジン スイッチに接触させます。キーが認識されると、「ピー」という音が鳴ります。
- アクセス キーは、裏面のスパル マーク付近をスイッチの中心に接触させます。
 - エンジンを始動するときは、ブレーキペダルを踏みながら行ってください。スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

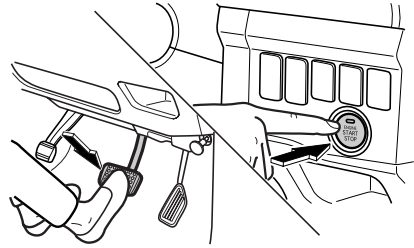
アクセス キー



メイン キー



3. キーの認識後、約 4 秒以内にスイッチを押すと、電源が切り替わります。
(ブレーキ ペダルを踏みながら操作している場合は、エンジンが始動します)



📌 アドバイス

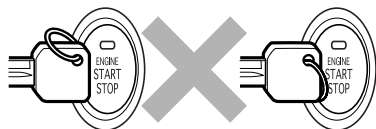
- いったん電源を“OFF”にすると、スイッチを押しても電源の切り替えができません。もう一度キーを認識させてください。
- キーの認識後、約 4 秒以上たつと、電源を切り替えることはできません。もう一度はじめから操作してください。



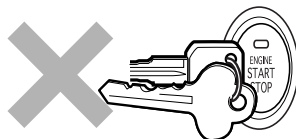
いざというときに いざというときの処置

👉 アドバイス

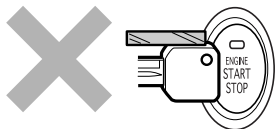
- メイン キーでエンジンのスイッチ操作を行う場合、下記のような状態では、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンのスイッチ操作ができない場合があります。
- キー グリップに金属製のリングをのせたままのとき



- キー グリップにほかのキーの金属部が接しているとき

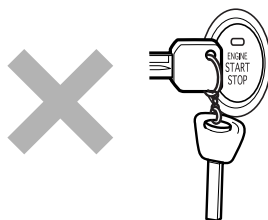


- キー グリップに金属製の物が接しているとき

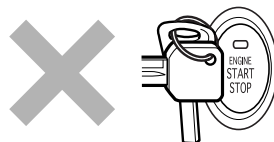


👉 アドバイス

- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号アンテナ内蔵の物）と近いとき



- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号アンテナ内蔵の物）と重なっているとき





キーの電池交換

- インジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
- 電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での交換をおすすめします。

電池の残量確認

キーレス アクセス装着車

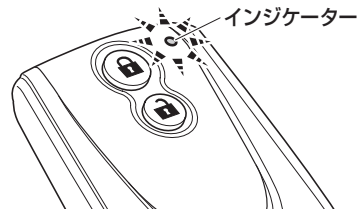
アクセス キーの電池の残量を確認できません。

▼ 確認方法

アクセス キーの電池を取り外して、再度取りつけてください。

(アクセス キー→ 284 ページ)

インジケーターの点滅で、電池の残量を確認できます。



▼ 電池が消耗していないときは

インジケーターが4回点滅します。

▼ 電池が消耗しているときは

約6秒間、インジケーターが高速点滅します。

アクセス キーが使用できなくなる前に、電池を交換してください。

(アクセス キー→ 284 ページ)

👉 アドバイス

- 電池が切れているとき、インジケーターは点滅しません。
- 電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴った場合も、電池が消耗しています。
(警告ブザー、メーター表示による警告 → 92 ページ)



いざというときに いざというときの処置

メイン キー

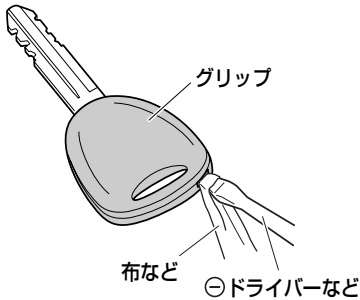
電波式リモコン ドア ロック装着車

▼使用電池について

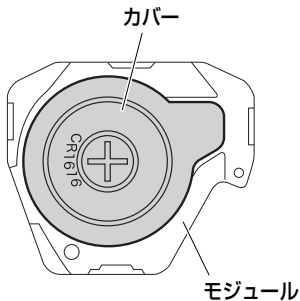
使用電池は「CR1616 (3V)」です。

▼交換方法

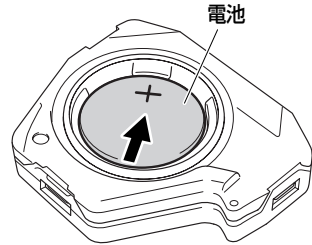
1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、グリップを外します。



3. モジュールの裏側のカバーを外します。



4. 矢印の方向にスライドさせて、電池を取り出し、新しい電池と交換します。



▼交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。



⚠️注意

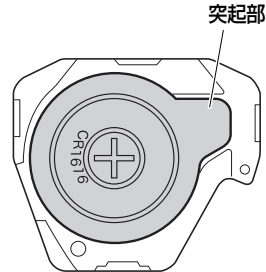
- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりメイン キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

👉アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はメイン キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

👉アドバイス

- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。





いざというときに いざというときの処置

アクセス キー

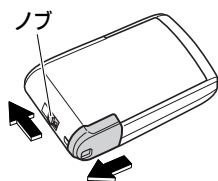
キーレス アクセス装着車

▼使用電池について

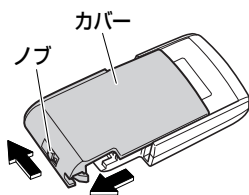
使用電池は「CR2032 (3V)」です。

▼交換方法

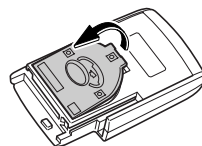
1. アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、アクセス キーから、メカニカル キーを引き抜きます。



2. アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、カバーを外します。



3. フタを開いて外します。

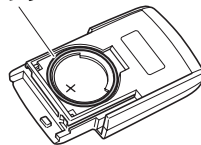


📖 アドバイス

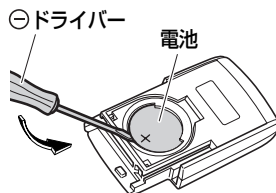
- フタを外すときは、ゴム リングがフタの裏面に付いている場合がありますので、紛失しないようにしてください。

4. ゴム リングを外します。

ゴムリング

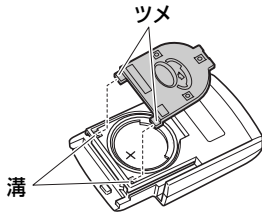


5. ⊖ドライバーを差し込み、電池を取り出し、新しい電池と交換します。



▼交換したあと

1. ゴム リングをねじれがないように、元の位置に取り付けます。
2. ツメをアクセス キーの溝に入れて、フタを取り付けます。



3. カバー、およびメカニカル キーを取り外しと逆の手順で取り付けます。
4. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。

⚠注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセス キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はアクセス キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。
- フタとゴム リングに異物が付着していないことを確認してから取り付けてください。



キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。

別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。

▼キーをなくした場合

電波式リモコン ドア ロック装着車

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

👉 アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キーレス アクセス装着車

保管していたメイン キー（またはアクセス キー）とキー ナンバー プレートを最寄りのスバル販売店にお持ちください。

👉 アドバイス

- アクセス キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ずアクセス キーを携帯していることを確認するか、電波式リモコン ドア ロック操作で施錠を行ってください。

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のほしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を行います。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

A series of 26 horizontal dotted lines for writing.